

世界各地で人類史古物の土器作りが復活し、現代の作家による再現・創作が行われています。こうした動きは原点回帰と共に未来を志向し新しい創造を模索する文化潮流となっています。

アマゾン土器(マラジッアール土器・タパシヨニカ土器)の作者メストレ・カルドーフさんは、先住民が作った土器の技法や材料を長年かけて調査・研究し、先史土器の複製を成し遂げた人。すでに超人ですが他の土器を弄しません。長年アマゾンの土器研究をしてこられた九州大学の吉野真幸氏より昨年12月のカトリックの土器の複製を助けてこの企画が実現。企画展では再現復元したアマゾン(ブラジルの土器)・中米系土器・北米系土器の土器などに縄文土器を加えて一堂に集約し、世界的な視野で眺め物の面白さになります。これらの土器は土器や芸術品の複製が縄文土器と混淆するものが明確見えます。



アートの根源から
未来の創造へ！

（猪風来美術館企画展）

縄文土器やアマゾンの土器たちが語るもの

2023年2月1日(水)～5月28日(日)

【開催企画】座談会「土器たちが語るもの」

日時 2月25日(木・祝) 午後1時～3時 / 場所 企画展示室 申込不要(要観覧料)

古野真幸 (九州大学名誉教授) 縄文、アマゾン土器の歴史をよく知る人類学者の視点から
藤本道子 (岡山大学文学部考古学専攻) 縄文土器の考古学、比較考古学の視点から
高木士マウ (岡山県立大学デザイン学部専攻) 縄文・土器の複製技術、土器の作り手の視点から
猪風来 (縄文土器館・猪風来美術館館長) 縄文土器・土器館の制作、現代アートアーティストの視点から

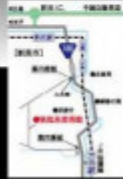
【出品作家】

アマゾン(ブラジルの)土器 メストレ・カルドーフ

古代アメリカ土器 真世士マウ

北米系土器 日コシー

縄文土器・土器 猪風来、村上真由、土田哲也、高田直樹



猪風来美術館

新井市法曹陶芸館

〒719-2552

岡山県新井市法曹館609

Tel./Fax 0861-75-3444

<http://www.iwana.jp/>

日本唯一の現代縄文美術館。

縄文土器・縄文土器と村上原野

の縄文土器作品など代表作を

200点以上を常設展示。

生命と魂のデザイン

～縄文スチールアートを

現在まで継承。

【観覧時間】午前9:30～午後5:00

【休館日】休館日 休館日は、休館日

(休館日) 休館日(休館日)

【観覧料】一般400円/高校生200円

【アクセス】新見駅から車で30分

新井倉庫からタクシーで約15分

0867-75-2444

086-251-7442
ridc@okayama-u.ac.jp

086-251-8463
